

大西洋クロマグロ 西大西洋

Atlantic bluefin tuna *Thunnus thynnus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 3.3 m・725 kg
- 寿命：40 歳
- 性成熟年齢：11 歳で 56% が性成熟するが、より早熟の可能性も。
- 産卵期・産卵場：5~6 月、メキシコ湾
- 索餌期・索餌場：北緯 35 度以北の大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類等

利用・用途

刺身・すし等

漁業の特徴

主な漁業国は、米国、カナダ及び日本である。日本の漁獲は全てはえ縄、米国及びカナダではロッド&リールと呼ばれる釣り漁業が主体である。漁期は、米国が主に 7~11 月、カナダは 8~11 月である。日本の漁期は 11~3 月であったが、2009 年の個別割当制度 (IQ 制) 導入ののち徐々に早まり、現在は 9~12 月である。

漁獲の動向

漁獲量は 1981 年までは 5,000 トン前後で推移したが、漁獲規制により 1983 年以降は 2000 年代半ばまで 2,500 トン前後となっている。2002 年に、1982 年以降で最大の 3,319 トンに達した後、1,800 トン前後で推移し、2013 年には過去最低水準 (1,482 トン) を記録した。2022 年の総漁獲可能量 (TAC) は 2,726 トンに設定され、実際の漁獲量は 2,700 トンであった。

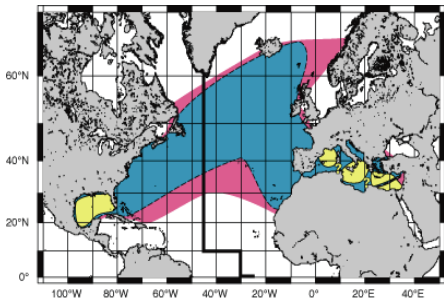
資源状態

ICCAT 科学委員会 (SCRS) における 2021 年の資源評価では、従来の手法である ADAPT VPA と SS3 を使用したが、SS3 のみを評価結果として採用した。SS3 による評価結果に関しても、その不確実性の高さに留意することを勧告に加えた。総資源量は 1980 年代半ばまで大幅に減少し、2000 年半ばまで横ばいで推移したあと、近年まで増加し続け、2020 年には 1980 年代前半のレベル (約 4.8 万トン) となった。加入量推定値は 1970 年代初頭以前には高い水準にあったが、1974 年以降、低い水準で推移している。2000 年以降における比較的高い加入は、2003 年、2005 年、2008 年、2017 年に起こっている。近年 (2012~2017 年) の平均的な加入量及び選択率を仮定し、2022 年から 2023 年までの短期的な将来予測を行った結果、現行の TAC を今後 2 年継続しても経験的に安全とされる管理基準値である $F_{0.1}$ を上回る可能性は低いと予測された。

管理方策

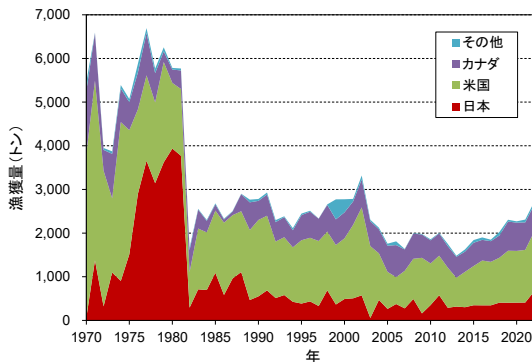
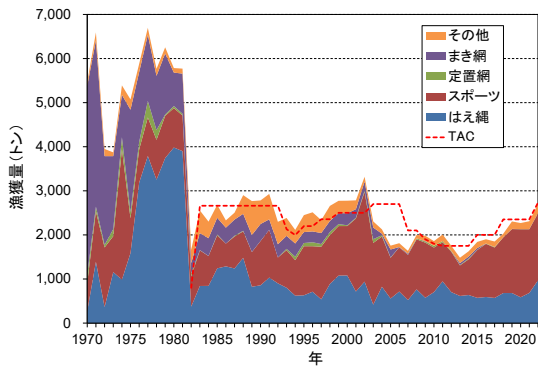
2022 年 ICCAT は管理方式 (MP) に合意した。MP は導入から 30 年間資源が極めて悪い状態になる確率が 15% 以下で、30 年後の 2053 年の時点で 60% の確率で資源が望ましい状態にある等の管理目標を達成するように開発されている。MP から算出された 2023 年から 2025 年の TAC は 2,726 トンである。TAC は MSE の評価で想定されていない状況 (ECs: Exceptional circumstances) が生じない限り、今後 3 年ごとに MP から算出された値に従って更新される。2023 年 11 月の ICCAT 年次会合で、想定外の状況であるかどうかを評価する項目に合意し、現状は想定外の状況ではないことを確認したため、2024 年の TAC は MP で計算された通り 2,726 トンで、その内日本の割当は 664.52 トンである。他の規制として、SCRS が資源崩壊の危機を認めた場合は漁業を停止、体長 115 cm (または体重 30 kg) 未満の個体の漁獲量制限 (国別に漁獲量の 10% 未満とすること並びに小型魚から経済的利益を得ない方法を開始すること)、産卵場 (メキシコ湾) における産卵親魚を対象とした操業の禁止及び漁獲証明制度が実施されている。

大西洋クロマグロ（西大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	1,850~2,306 トン 最近 (2021) 年: 2,303 トン 平均: 2,151 トン (2017~2021 年) (投棄を含む)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	346~408 トン 最近 (2021) 年: 408 トン 平均: 395 トン (2017~2021 年)
資源評価の方法	ADAPT VPA 及び統合モデル SS3
資源の状態 (資源評価結果)	近年 (2018~2020 年) の漁獲死亡係数は、本種の管理基準値である $F_{0.1}$ よりも低く、 過剰乱獲は進行中ではない。 $F_{2018-2020} / F_{0.1} : 0.53$
管理目標	資源量を MSY を達成できるレベルに維持し、かつ、漁獲死亡係数を MSY を達成するレベル以下とする
管理措置	TAC : 2,726 トン (2023~2025 年) (日本枠: 664.52 トン) 115 cm (または 30 kg) 以下の魚の漁獲量制限 (10%以下、国別)、 漁場・漁期の制限 (産卵場における産卵親魚の漁獲制限)、漁獲証明制度
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2021 年
次回の資源評価年	2026 年または 2027 年

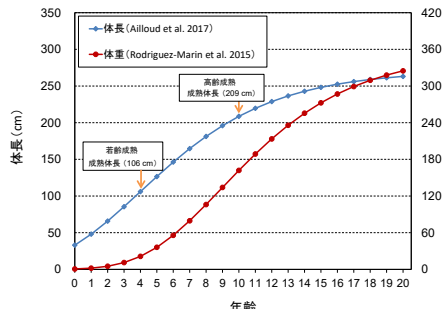


大西洋クロマグロの分布域 (赤) と主要漁場 (青)、産卵場 (黄)

索餌場は産卵場を除く分布域。縦太線は東西の系群の境界。

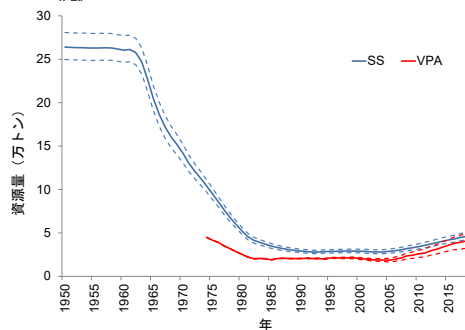


大西洋クロマグロ (西系群) の年別漁法別漁獲量 (上) と年別国別漁獲量 (下) (1970~2022 年)
漁獲量には投棄分も含まれる。



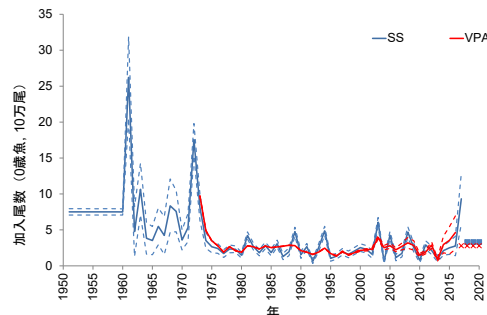
大西洋クロマグロ (西系群) の年齢あたりの体長と体重

青は 2020 年の資源評価で更新された成長曲線、図中の矢印は成熟体長 (若齢成熟または高齢成熟) を表す。赤は体重曲線を示す。



大西洋クロマグロ (西系群) の資源量の推移 (1950~2020 年)

2021 年資源評価での推定総資源量 (全年齢の魚)。青は SS、赤は VPA の結果を示す。上下の点線間は 80% 信頼範囲。



大西洋クロマグロ (西系群) の加入尾数 (1 歳魚) の推移 (1950~2020 年)

2021 年資源評価での推定加入尾数。青は SS、赤は VPA の結果を示す。上下の点線間は 80% 信頼範囲。